

文 学 部

文化歷史學科

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 阿河雄二郎	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	-------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>講義「西洋史学入門」</p> <p>講義「西洋史学特殊講義」</p>	2005年5月	<p>フランスの歴史でよく知られるジャンヌ・ダルクの生涯を追い、その研究史上の問題点を指摘した。授業では、できるだけジャンヌ・ダルクのイメージを浮き彫りにするため、写真や図像を用いた。</p> <p>日本ではあまり知られることのない近世(16-18世紀)フランスの狩猟史を取りあげた。猟犬狩と鷹狩の実態を、図像を用いるなどして具体的に紹介したが、その意味論に十分踏み込めなかったのが反省点である。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		なし
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		なし
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>放送大学の講義担当とテキストの作成</p> <p>文学部主催学術講演会の実施</p>	<p>2005年4月—</p> <p>2005年6月24 日</p>	<p>平成17年度から実施される西洋史関係の講義「ヨーロッパの歴史」を4回担当した。合わせて、テキスト(『ヨーロッパの歴史』2005年3月刊)のうち、12-15章(121-160p)を執筆した。</p> <p>文学部の主催により、ジャン＝クレマン・マルタン・パリ第1大学教授(フランス革命史研究所長を兼任)の講演会「フランス革命史研究の現状と展望」を図書館ホールで開催した。マルタン教授は、フランス革命史研究を代表する著名な研究者であるが、講演会には学内外から70-80名の参加者があり、とても有意義であった。</p>

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	網干 毅	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「美学芸術学特殊講義」における視聴覚機器の活用 ・「美学芸術学演習Ⅰ」における音楽体験の工夫 	<p>2005年度春 学期</p> <p>2005年度春 学期</p>	<p>西洋音楽史に関する講義のため、毎時間 CD を聞くことはもちろんのこと、オペラにおける DVD の活用、さらに教材提示装置での楽譜の例示、またピアノで個々の旋律や和音を確認することなどをし、言葉だけでなく音楽に直接触れる体験を重視している。</p> <p>音楽学を学ぶゼミナールであるが、根底に豊かな直接的音楽体験が必要であるため、学生の発表においても視聴覚機器を大いに活用するとともに、持ち運び可能な楽器などは教室に持ち込み間近で見、手で触れる等の工夫をしている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教員	氏名 荒山正彦	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>講義科目では、フィールドを重視する地理学や地域文化学に関わるため、できるだけ現地での映像を学生たちに提供し、また、プリントやプレゼンテーションソフトを用いて、資料をたくさん提示する講義を心がけている。</p> <p>実習などの科目では、学生たちの作業が中心となるため、さまざまな資料準備を行ってきた。</p> <p>演習（ゼミ）ではフィールドを重視してきた。</p>	<p>2004年4月 ～2005年7月</p>	<p>履修者・受講者が多人数になる講義においては、授業内容に関するコメントと授業に対する感想を複数回集め、次回以降の講義に反映できるようにした。また毎回の講義において、学生の手元に残るように資料プリントを配布し、自ら撮影し加工した現地の映像を、出来るだけたくさん学生たちに提供した。</p> <p>実習や資料研究などの30～40人前後の履修者となる科目では、学生の作業が中心となるように、地形図、統計類などの各種の教材を用意した。</p> <p>演習（ゼミ）ではフィールドワークや合宿を行った。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>教材としての出版物はない。教材はさまざまな資料を集めて編集し、印刷して学生たちに提供している。</p>	<p>2004年4月 ～2005年7月</p>	
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>なし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>連続講演「〈景観〉を考える」の第2回として「近代日本における風景論の系譜」を担当した。</p>	<p>2004年3月6日 (土)</p>	<p>東京都多摩市文化財団が主催する市民講座「〈景観〉を考える」(全5回)のうち第2回を担当した。</p>

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 飯田収治	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>事前のアンケート調査の実施。その結果に基づく課題設定。課題毎のグループ討論とその結果の発表。自由討論と教員側のコメント。講義科目ではあるが受講生の積極的な授業参加を保護する一つのサンプル実験。授業後の感想文・意見文の提出。グループ報告については、事前にその内容を個別に面談形式で指導。各年度の後半の授業内容はこの結果に照らして決定。</p>	<p>授業科目「史学概論」</p> <p>2001年4月～7月</p> <p>2002年4月～7月</p>	<p>「歴史学を学ぶ意義」をテーマとした授業。授業に入る前に受講生全員にそれに関するアンケート調査を行い、学生側の問題意識のあり方を予め押さえておいた。その問題意識を幾つかのタイプに整理し、それぞれに即した課題を掲げ、グループ討論を行わせた。グループ内の検討には直接には関与せず、その成果の発表に際して、授業の数日前に内容をまとめたレジュメを提出させ、それについて面談形式でコメントを行い、必要であれば修正も求めた。多人数授業ではあったが、教員と学生間の双方向意見交換を可能とする一つの方法を示した次第である。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>なし</p>		
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>なし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>なし</p>		

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 榎本庸男	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	1996年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的総人数のクラスが多いので、特段の工夫はしていない。 ・ 担当科目（哲学、倫理学）の性格上、抽象的な内容を伝えねばならないことが多いので、できるだけかみ砕いて、具体的な例をあげるようにつとめている。 ・ 講義形態の授業ではレジメを作成している。
2 作成した教科書、教材、参考書	1996年4月～	自分でつくったレジメ。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項		

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	加藤哲弘	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ・講義内容を Web 上で公開 ・マルチメディア機器を活用 ・質問用紙の使用	2000年3月～ 2004年7月	・講義内容の概略、参考文献リスト、紹介作品のデータ、使用する原典テキストからの引用などを Web 上で公開している。 ・スライドや液晶プロジェクタ、プレゼンテーション・ソフトなどを使用して作品や講義概要を具体的に解説している。 ・多人数履修の授業や、内容が抽象的なものになりがちな授業において、学生の理解度を把握し、それを向上させるために、授業の最後に質問を提出させている。次の授業でコメントを紹介したり、質問に答えたりすることで授業内容を思い出させ継続性を維持することに寄与している。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・自己作成したレジュメ	同上	・講義内容の概略、参考文献リスト、使用作品のデータ、使用原典からの引用文などを A4 用紙 1 枚にまとめて配布した。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項 ・カリキュラム編成担当 ・市民講座の担当 ・市民講座の担当	2001年3月～ 2004年7月 2001年2月 2002年10月～ 11月	・文学部美学科、美学芸術学専修のカリキュラム編成を担当した。 ・芦屋川カレッジ（芦屋市文化振興財団事業部）において市民講座「絵画鑑賞の手引き：ヨーロッパ美術とギリシャ神話」を担当した。 ・兵庫県立美術館において、平成 14 年度美術講座(鑑賞講座)「彫刻をよりよく鑑賞するために～西洋彫刻の流れと見方～」を担当した。

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	河上繁樹	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①マルチメディア機器の活用 ②対話的授業の重視 ③実地見学・実習の実行	2004年4月～ 2005年3月	①「芸術史（日本）」「芸術史（比較・交流）」「美学芸術学特殊講義」は、いずれもが美術や工芸を対象にした授業であり、視覚的な理解が求められるため、これまでもスライドを用いてきたが、2004年度にはパワーポイントに切り替えた。これによって、1画面のなかでの比較や拡大が可能になり、また同時に難解な専門用語を提示できるので受講生の理解の助けとなった。 ②「美学講読Ⅲ」は、江戸時代のくずし字が読めるようになることを目標にした授業であり、毎回数名の学生を指名して輪読をおこなうとともに、課題のプリントを受講生全員に配布し、時間内に各自が積極的に読解に取り組み、読めない文字については個別に対応しながら判読できるように努めた。 「博物館概論」は講義形式の授業であり、一方的な講義にならないように、講義後に授業内容に関連する課題を与え、受講生の意見を求めた。 ③「美学芸術学演習」では、月に1度の割合で美術館や博物館にでかけ、美術品や工芸品の実物を観察する能力を養うように心がけた。また、染色や作陶の工程を体験するために実習をおこなった。
2 作成した教科書、教材、参考書 ①自作の教材	同上	①「芸術史（日本）」「芸術史（比較・交流）」「美学芸術学特殊講義」では工芸品や文様など写真やイラストを用いて説明する必要があるため、講義内容に写真やイラストを添付したA3版のプリント1～2枚を毎回配布し、授業理解の向上を図った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 関西学院大学教職教育研究センター 紀要第10号「関学における博物館 学芸員課程の在り方」	2005年3月	博物館学芸員課程において実習の場を提供する大学博物館の必要性について述べた。
4 その他教育活動上特記すべき事項 大学連携「ひょうご講座」講師 パリ日本文化会館講演講師 東京芸術大学大学美術館公開講座講師	2003年9月～ 同11月 2004年9月～ 同11月 2004年5月 2005年4月	「日本の芸術文化の潮流」9回中3回を担当 「日本の芸術・文化を通して世界を見る」9回中3回を担当 “Histoire de <i>Nishiki</i> , tissu de soie traditionnel du Japon” パリ日本文化会館で開催された“Tissage de Lumière”に関連する講演 「厳島神社の芸能装束-舞楽と能」 東京芸術大学大学美術館で開催された『厳島神社国宝展』関連の公開講座

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	木村秀海	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 学生が実際の文献資料を自分で検索できるように指導している。	2005年	現在の学生には必要な文献を捜すことができない者が極めて多い。これに対してはネット上での捜索の仕方を講義・実演して見せ、文献目録を作成させるという方法で解決をはかっている。 少人数の授業では、なるべく実物を持参し、学生に直接捜させ、捜すことへの抵抗感を減少させようと試みている。これはかなりの効果をあげていると考えられる。
2 作成した教科書、教材、参考書 中国文献集成	2002年	インターネットで公表され free 使用が認められている中国関係の html ファイル文献を 500 種程を網羅した文献集成を作成し、学生の使用に供している。またワード・一太郎で使用できる free のマクロを集めたものを作成し、同様にしている。 授業中にこれらの使用法を講義し、予習における文献調査や卒論の作成がスムーズに行えるようにしている。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		なし
4 その他教育活動上特記すべき 事項		なし

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 専任講師	氏名 久米 暁	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	------------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>「論理学Ⅰ」・「論理学Ⅱ」における 実践練習に重点をおいた授業</p> <p>「総合N」におけるプロジェクトの利用</p> <p>小テストの頻繁な実施</p>	<p>2003年4月～ 2005年3月</p> <p>2004年4月～ 2004年9月</p> <p>2003年4月～ 2005年3月</p>	<p>論理学は、講義を聞いているだけでは力がつかず、実際に練習問題にあたっていくうちに、自然と身につくものである。そのため、ほぼ毎回のように小テストを行ない、次の授業までに採点をして、返却し、それをもとに授業を行った。授業中にも、学生に問題を解かせ、何人かの学生に黒板に解答を書いてもらい、それを使いながら授業を行った。</p> <p>「総合N」はリレー講義であり担当分は2回であったが、大講義室における授業であったため、学生の集中力を高めるために、図や絵をTV画面に写すなどしながら講義を進めた。</p> <p>講義科目、特に多人数履修の授業においては、小テストを頻繁に行うことによって、学生の理解度を把握し、理解度が足りない箇所については授業で補うなどした。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>自己作成したレジュメ</p>	<p>2003年4月～ 2005年3月</p>	<p>講義科目においては頻繁に自分で作成したレジュメを配布した。特に1年生向けの講義では、ほぼ毎回レジュメを用意した。授業内容の概略、引用、参考文献等を中心に作成し、1回につきA4用紙1枚から2枚程度の分量とした。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p style="text-align: center;">特になし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>カリキュラム委員</p> <p>時間割実務担当委員</p> <p>広領域検討委員</p> <p>言語教育検討委員</p>	<p>2003年4月～ 2004年3月</p> <p>2003年4月～ 2005年3月</p> <p>2004年4月～ 2005年3月</p> <p>2004年4月～ 2005年3月</p>	<p>文学部のカリキュラム上の諸問題を検討した。</p> <p>文学部文化歴史学科哲学倫理学専修の時間割を編成した。</p> <p>文学部の言語科学コースへの分属方法やガイダンス・面接の仕方等について検討した。</p> <p>文学部学生の言語教育に関する諸問題、たとえば、スペイン語の必修選択科目としての導入等について検討した。</p>

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 専任講師	氏名 後藤裕加子	大学院の授業担当の 有無（無）
-----------	------------	-------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） レジュメの配付 小テストの実施 アンケート	毎学期 毎学期 毎学期	初学者には馴染みのない専門用語が頻出するため、毎回レジュメを配付し、授業内容理解の助けとする。 知識の定着のため、またその確認のため授業内小テストを実施。 各学期の授業の最後に将来の授業の参考とするため、参加学生にアンケートを行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 自己作成したレジュメ 参考文献リスト	毎学期ごと	講義系の授業においては、初回に授業内容に関係のある参考文献リストを配付。また毎時間ごとに授業内容にそったレジュメを作成のうえ配付。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項 カリキュラム委員会 第 20 回 RCC フォーラム 西宮東高校「木曜講座」 （なるお文化ホール） 段上公民館講演会 箕面高校模擬授業	2003 年度～ 2003 年 1 月 2004 年 10 月 2005 年 3 月 2005 年 5 月	文学部所属専修のカリキュラム編成 シンポジウム「民族、宗教、紛争—多宗教社会・日本からキリスト教とイスラームを問う」のパネラーとして発表・討論に参加。 市民講座・イスラームを識る（第 3 回）「イスラーム世界の繁栄 オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国」を担当。 市民講座「イスラームとイスラーム文化」を担当。 高校模擬授業「イスラームとイスラーム文化」を担当。

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 助教授	氏名 米虫正巳	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	-----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>レポート作成による表現能力の養成</p> <p>問題に対する思考力の養成</p>	<p>2004年4月～ 2004年7月</p> <p>2004年4月～</p>	<p>1年生のための人文演習においては、学生に書くという習慣を身につけさせるために、絶えずテーマに沿ってレポートを書くことを義務づけ、それを提出させて添削して返却することを繰り返すことで、学生の文章表現能力を向上させるよう試みた。</p> <p>この授業においても、常に学生たちに問題を提示し、その問題に対してどのような根拠や理由によって、どのように考えることが可能か、ということを学生みずからが思考できるように試みている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 自己作成したレジュメ</p>	<p>2004年4月～</p>	<p>哲学史の講義において、授業内で扱う哲学者の各々について、その主要著作の内容、邦訳の有無や出版社などについてのレジュメを配布し、学生たちが自分自身で哲学書を読むための手引きとしている。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等 なし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項 特になし</p>		

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 阪倉篤秀	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>a 「アジア史入門」における、高等学校の世界史と大学における歴史学の橋渡しの内容的充実</p> <p>b 参考資料としての配布資料の作成と追加修正</p> <p>c パワーポイントの導入</p> <p>d 時事問題の積極的取り組み</p> <p>e 授業評価への参加</p>	<p>2003～05 年度</p> <p>2000～05 年度</p> <p>2004～05 年度</p> <p>2003～05 年度</p> <p>2000～05 年度</p>	<p>新規科目として設けられた「入門科目」の目的に沿い、アジア史について、「アジアとヨーロッパ／東洋と西洋」の語源から説き起こし、それぞれの用語の歴史性と地域性を明らかにするとともに、日本において成立する両用語の近似的意味運用を解説し、その上で東西交流におけるアジアの役割を「歴代交流概念図」などを作成し、通覧的に理解させる工夫をした。</p> <p>担当講義（中国史関係）において、基礎的項目（天の思想・中華思想、五行・易・干支およびその相関関係、二十四節季と現在の暦の対照）などを独自の表図に作成して、理解の促進を図り、今後も修正追加を行う予定にしている。</p> <p>2004 年度に担当した「アジア史概説」において、多人数講義であることなどを考慮し、パワーポイントを利用することにした。さらにそれを資料印刷の形で配布資料として利用した。また、その折の学生からの意見をもとに、2005 年度「アジア史入門」においては、カラー化およびデモンストレーション機能を高める工夫を行った。</p> <p>演習や史料研究などの少人数クラスにおいては、講義目的である中国史と史料読解に加えて、積極的に現在の時事問題を関係ある範囲で連結させ、歴史と現在が無縁ではなく強い接続性を持つことを実体験させるよう工夫した。</p> <p>授業評価に積極的に参加し、特に学生からの意見を参考にしている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>a 『さまざまな角度からの中国論』 (晃洋書房)</p>	2003 年 3 月	<p>5 年にわたる大学共同研究を講義に反映させてきた「中国総論」の講義内容を母体に、歴史のみならず言語・文学、現在の社会・経済・政治、そして香港返還問題なども含んだ中国への理解を促進する参考図書を編集出版した。自身はそのはじめにとおわりにに加えて、「中国を理解するために」として「中国の基本思想—日本との関わりを視座に」と「中国文明の特質—歴史概観をこめて」を執筆し、コラム 10 項目および「王朝変遷図」「近現代中国大事年表」を加えた。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>a 朝日カルチャーセンター（京都） における「テーマで語る中国史」</p> <p>b 朝日カルチャーセンター（大阪） における「皇帝と中国史」</p> <p>c 放送大学京都センター面接授業</p> <p>d ひょうご講座</p> <p>e 宇治老人大学</p>	<p>2000～04 年度</p> <p>2004 年度</p> <p>2002～05</p> <p>2005 年度</p> <p>2000 年度</p>	<p>中国の皇帝を中心課題として、その称号問題から開始し、即位問題後継問題について歴代に例を求めて講義を行った。さらには関連事項として皇后・皇太后、宦官・奸臣についても同様の手法で講義をした。</p> <p>シリーズの 2 回分を担当し明の洪武帝と永楽帝について講義した。</p> <p>「中国史と皇帝」を中心課題として、中国文明の特質から説き起こし、中国における皇帝政治の本質を指摘した。</p> <p>9 月～12 月の 10 回シリーズを企画し、自身は 1・2 回目を担当し、主として中国文明の特質について紹介するした。</p> <p>依頼を受けて中国の基本思想について講演した。</p>

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 助教授	氏名 佐藤達郎	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	-----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>パソコンによる、パワーポイントと 図像提示を多用した授業の実施</p>	<p>2001年4月 ～2005年7月</p>	<p>話の要点を明確に伝えるために、パワーポイントを活用しつつ、学生の関心興味を引き出すべく図像の提示を多々交えた。また理解を助けるため、簡易ソフトで作成したアニメーションによるイメージ提示をしばしば行った。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 自己作成したレジュメ</p>	<p>同上</p>	<p>パワーポイントを使う際は、パワーポイント配布資料および参考図表を、また使用しない際は文字・図像両者から成る史資料を、ほぼ毎回配布した。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等 なし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>東大阪市・大阪樟蔭女子大学共催市 民講座講師</p> <p>鳥取県立図書館主催市民講座 講師</p> <p>クレオ大阪北（大阪市立男女共同参 画センター北部館）主催市民講座 講師</p>	<p>2003年11月</p> <p>2003年5月～9月</p> <p>2003年10月 ～2005年1月</p>	<p>同左として市民講座「中国古代の暮らしと文化」を担当。</p> <p>同左として市民講座「木簡が語る中国古代」を担当。</p> <p>同左として中国古代・中世史の市民講座を担当。</p>

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	志村 洋	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>「日本史概説」における、学生の思考力に重点をおいた授業開発</p>	<p>2004年4月 ～2005年3 月</p>	<p>ともすれば暗記に偏りがちな歴史の授業を、学生の思考に重点をおいた内容にするために、特定のテーマについて対立する諸説を紹介したり、受講生に20年前の教科書内容と現在のそれとの異同がわかるよう配慮するなどした。</p> <p>また、抽象的な概念を学生に分かりやすく説明するために、図・写真を多用した資料レジュメを用意し、それに即して授業を進めた。また授業中は、レジュメだけではなく、OHCも用いて、学生の感覚に訴えるようにした。</p> <p>履修者450人を越す大人数授業において、学生の理解度を学生の反応からつかむことが困難であったため、要所所で授業の最後にコメント・質問用紙を配り、提出させた。次の授業においてコメントを紹介したり、質問に答えるなどした。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>自己作成した資料レジュメ</p>	<p>同 上</p>	<p>古代から明治期までを対象とし、図・写真を多用した。中でも、学生の思考を促すトピックとして、大化改新論争(郡評論争)・鎌倉幕府成立期論争・源頼朝像の像主異説・慶女触書の真贋論争などを取り上げた。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する</p> <p>発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき</p> <p>事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 田中きく代	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	-------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2000年4月～	・学生が理解を深めるために、写真なども載せたレジメを配布し、参考文献などは実際に回覧している。OHCなどを利用し、視覚に訴える努力をしている。
	2000年4月～	・授業の最後には、授業のコメントや質問を毎時提出させている。
	2004年4月～	・史料研究などでは、一人一人に翻訳させるのではなく、ある程度のまとまりのある分量を、教卓のところでプレゼンさせている。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等	同上	
4 その他教育活動上特記すべき 事項		

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授（宗教主事）	田淵 結	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>・ 文学部キリスト教学の講義内容 要約のウェブ上での公開配布</p>	～2004年度	<p>文学部必修科目として設定されるキリスト教学講義において毎回提示される講義内容の要点、キーワード、簡単な開設など、講義理解にとって必要とされる事項を予めウェブ上に公開し、受講生の講義内容理解のための補助とした。またその内容はパワーポイントによって1講義中に提示し、予習、講義、復習の連携化に努めた。さらに質問などを直接担当者へ送付することの便をも図っている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>・キリスト教学資料</p> <p>・総合コースNPO・NGOとボランティアなどの教材資料</p> <p>・『関学学講義』資料</p>	<p>～2004年度</p> <p>～2004年度</p> <p>～2004年度</p>	<p>教材資料「キリスト教の流れ」「聖書のつくり」など作成</p> <p>講義において配布される講義資料を適宜作成</p> <p>学校史として取り上げる関西学院の展開にあたってキャンパスが有する意味を理解させるため、設計者ヴォーリズのキャンパスデザインを明示するための資料を作成</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>学内キリスト教学担当者連絡会における成果紹介</p>		<p>月例で行われる本学キリスト教学担当者連絡会において、適宜講義実践における内容、課題、問題点を共有しつつ、そのよき展開のための努力を続けている</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>『文学部チャペルニュース』</p> <p>関西学院大学体育会ラクロス部 (男女)の実績評価、指導のための レポート作成</p>	<p>～2004年度</p> <p>～2004年度</p>	<p>本学の建学の理念に基づくもっとも具体的かつ実践的な教育プログラムであるチャペル・アワー出席者を中心として、宗教主事として建学の理念、キリスト教主義の立場からのメッセージを執筆し、また学生たちのコメントも合わせて印刷配布し、本学の理念教育のための展開に努めている。</p> <p>創部以来部長を務めている「関西学院大学ラクロス部」(男女)のさまざまな活動のなかで、特に大きな練習試合、遠征、さらに公式戦などの観戦を通じて、試合運営、内容、技術上の課題、今後の展望などをレポートし、『むすびのことば』としてウェブ上に公開し、本学チームのいっそうの成績の向上のため、さらに大学スポーツとしてのラクロス競技の発展のための一助となるべく努力している。</p>

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	田和正孝	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>授業では、PCによる映像資料、スライド、ビデオ資料、時には標本などを提示して、学生の学習意欲を高める工夫をしている。ハンドアウトも重要と考えこれも毎回併用している。特に地域研究、地誌の授業では多様な資料が要求されよう。</p>	<p>2004年4月～ 2004年3月</p> <p>2005年4月～ 2005年5月</p>	<p>利用する資料のほとんどは、これまで自らが東南アジアや西南太平洋地域で撮影した一次映像資料である。これに現地で入手した論文や書籍、地図などを盛り込んでゆく。授業内容については、授業終了前に評価や疑問点を自由に記述するコメント用紙を提出させ、これによって次回、質問に答えたり、授業内容を修正したりしている。</p> <p>できるだけ新しい情報を学生に与えるため、新聞の切り抜きを教材として提示することもある。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>『海人たちの自然誌』(1998: 関西学院大学出版会)、『現代東南アジア入門』(2002: 古今書院)</p>	<p>1998年5月</p> <p>2003年4月</p>	<p>東南アジアの沿岸漁業文化に関する、自らの調査経験を活かした内容に仕上げている。資源管理、漁場紛争、民族、伝統漁法など幅広いキーワードを迫るように工夫した。</p> <p>東南アジアの海洋環境、漁村の成立、人と魚のネットワークなどに注目し、沿岸海洋文化を考えた。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>人文地理学会企画委員として、本会主催の「中高生のための地理学ウィーク」</p> <p>模擬講義「アジア海域世界をつなぐヒトとモノ」</p>	<p>2002年7月</p> <p>2003年7月</p> <p>2004年7月</p> <p>2004年7月</p>	<p>1年間の地理学ウィーク実行委員、2年間にわたる企画委員をつとめ、大学の地理学と中学・高校の地理を取り結ぶためにはどのようにすればよいかを議論し、講演、ミニ講義などの企画を担当した。</p> <p>高校生の本学訪問に際して、「模擬講義」を担当し、大学の地理学を高校生にいかにして伝えるか、講義を通じて考えた。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>WWF サンゴ礁保護研究センター(沖縄県石垣市)におけるセンター開設4周年記念講演</p>	<p>2004年6月</p>	<p>石垣市白保にある同センターがおこなった講演会「海とともに生きる知恵—自然の恵みの賢い利用法」において、「石干見(魚垣)の分布、そして保存・再生・活用」という講演をおこなった。地域が自然保護を進める指針の一端を示し、地元研究者、漁業者に今後の地域おこし、環境教育について考えるヒントを与えた。</p>

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の有無（有）
文学部	教授	永田彰三	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>スライド・ビデオ等、映像機器を使って、演劇・映画・現代美術の理解に役立つように使用している。</p>	<p>2004年4月 ～2005年3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についての興味を持った点や理解できない点について、質問等を提出させ、次の授業において、説明を加えている。 ・ビデオやスライドを使って、表現方法の理解に役立つようにしている。
<p>2 作成した教科書、教材、参考書資料の配布</p>	<p>同上</p>	<p>授業での理解に役立つように、授業で触れる戯曲やシナリオの一部をプリントして配布している。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>なし</p>	<p>同上</p>	<p>なし</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>日本映像学会関西支部の夏期映画ゼミナールの参加</p>	<p>同上</p>	<p>毎年、京都府立ゼミナールハウスで行われる2泊3日の映画ゼミナールに学生と共に参加し、映画の理解の仕方等を教えている。2004年のタイトルは「女優論」であった。</p>

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 永田雄次郎	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	-------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>・芸術学全般にわたる講義内容の科目においては、スライド、OHC、CDなどを使用し、芸術により親しめるような内容を工夫したものを目指している。 (例) 美学芸術学入門</p> <p>・美術全般にわたる講義においては、スライド、OHCなどを通して、美術にアプローチすることを目指している。 (例) 造形文化論</p>	<p>2000年4月～ 2005年(現在まで継続中)</p> <p>2003年4月～ 2005年(現在まで継続中)</p>	<p>プリント、楽譜などを配布し、内容を把握させる工夫をしている。出席票の裏に、各自が自由に質問を書き、それについて次の講義の最初に紹介し、その質問に答える。(すべての受講生が書く必要はない)</p> <p>また、一度は、全員に、講義についての感想、要望などを書かせ、本講義に対する受講生の評価としている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>「自己作成したレジュメ」を主として使用している。</p> <p>なお、造形文化論では、若元澄男編「図画工作・美術科重要用語 300の基礎知識」(明治図書、2000年)の一部を使用</p>	<p>2000年4月～ 2005年(現在まで継続中)</p>	<p>講義に関連した内容の文献を選択し、プリントして配布する。</p> <p>造形文化論においては、「図画工作・美術科重要用語 300の基礎知識」の中の自分の著した西洋美術史、美術教育の項目をプリントし、それを中心に講義を進めた。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>・姫路市立生涯学習大学校で美術鑑賞コース担当</p> <p>・ひょうご講座独自科目担当</p> <p>・関西学院大学オープンセミナー担当</p> <p>・朝日カルチャーセンター関西学院大学提携講座 心のシリーズ担当</p> <p>・インターカレッジ西宮「芸術学セミナー」担当</p>	<p>2000年4月～ 2005年3月</p> <p>2003年4月～ 2005年3月</p> <p>2003年11月</p> <p>2004年10月</p> <p>2004年7月</p>	<p>美術鑑賞コースで日本美術(主として近世美術史)を3回担当</p> <p>独自科目「日本の芸術・文化を通して世界を見る —日本の中の世界—」(2004年度)4回担当</p> <p>「関西美術の活躍」</p> <p>「彫刻で読む聖書」2回担当</p> <p>「美術を見る、考える」4回担当</p>

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	中谷 功治	有無（有・無）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>双方向を目指した授業の実践</p>	<p>2002年4月 ～2005年3月</p> <p>2005年4月～</p>	<p>本学着任以来、3年間にわたって担当したすべての授業、すなわち演習（人文演習を含む）、史料研究（旧文献講読）、各種講義、総合科目のいずれにおいても、授業が教員からの一方的な情報提供に終始することをできるだけ回避するため、学生との双方向でのコミュニケーションを図る試みを続けてきた。具体的には、上記のすべての授業において、学部所定のコミュニケーション・ペーパー（B5判）を受講生全員に配布し、授業に関する全般的な記述（感想・質問・提言など）を求め（これは、ある場合には出席を確認する作業をも兼ねているが、講義などにおいては無記名を認めることにより、学生の自由な発言を許している）、受講者数50名程度を基準として、これより少ない場合には、提出されたすべての用紙にコメント（感想・回答など）を記載して、次回の授業の最初に返却するようにし、50名を越える場合には、主要な質問などについて授業冒頭で簡潔にコメントするようにしている。これにより、授業内容の理解を促進させるとともに、授業展開を間接的に再評価しつつ、また予想外の誤解を回避することを日指している。</p> <p>以上のような授業方針は、本年度のすべての授業において継続して実施している。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 中西康裕	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>自己作成したレジュメを配布する以外に、教材提示装置を毎時間使用しビジュアルな理解に努めた。</p>	<p>2003年4月 ～2004年1月</p> <p>2004年9月 ～2005年1月</p>	<p>講義科目においては、レジュメに史料を掲載し、これを配布する。</p> <p>授業はレジュメの史料にそった形で展開される。</p> <p>図書や図録等によっている写真や図など、レジュメにしかないものについては、教材提示装置を使用して、学生の理解に役立てた。文献史学を担うものとして、レジュメ史料は欠かせないが、とかく平面的に陥りやすい歴史的な理解を視覚教材を通して多面的に理解できたのではないだろうか。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>自己作成したレジュメ</p>	<p>2003年4月 ～2004年1月</p> <p>2004年9月 ～2005年1月</p>	<p>日本史学を講義するにあたって史料読解は必須であるので、授業に係る史料（1～2年生には読み下し文）をレジュメに掲載した。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>はびきの市民大学</p>	<p>2003年10月</p>	<p>「はびきの学 ―日本と朝鮮半島との文化交流―」にて2回講座を担当した。題目は次のとおり。</p> <p>「南河内の渡来系氏族Ⅰ ―飛鳥戸造氏を中心に―」</p> <p>「南河内の渡来系氏族Ⅱ ―西文氏を中心に―」</p>

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	成田静香	有無（無）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 「中国語 B I」等 「漢文講読」「漢文」	2000年4月～ 2000年4月～	90分を小テストによる復習（約30分）と新しい学習（約60分）に分け、さらに途中でビデオ上映（約5分）を行い、めりはりのある授業を行うようにした。 限られた授業時間の中で、学生たちに、より多く話し、より多く聴かせるため、教師が学生を指名して読ませたり答えさせたりすることよりも、2～3人のグループによる練習に重点を置いた。同じ目的から、授業の進行に関わる部分は、できるだけ中国語を用い、学生にも「わかりました」「わかりません」等は中国語で応じさせた。 中国に対する理解を促し、中国および中国語に対する興味を喚起するために、毎回5分程度ビデオを上映するようにした。5分間ビデオは、長い授業時間における気分転換になることから、またその内容のおもしろさから、学生たちに強く支持されている。 学生が並行履修しているもう1つの科目（「中国語 A I」等）の担当者と連携し、それによって教育効果を高めるよう努力した。
2 作成した教科書、教材、参考書 『トライアングル中国語（下）』 『トライアングル中国語（修訂版）（上）』 『トライアングル中国語（修訂版）（下）』 『さまざまな角度からの中国論』 『中国語プライマリー1』 『中国語プライマリー2』 『中国女性史入門——女たちの今と昔』	2001年3月 2003年3月 2003年3月 2003年3月 2004年4月 2004年4月 2005年3月	共著 大学2年次学生用中国語教科書 共著 大学1年次学生用中国語教科書 共著 大学2年次学生用中国語教科書 分担執筆 総合コース「中国総論」に基づく参考書 共著 大学1年次学生用中国語教科書 共著 大学2年次学生用中国語教科書 共編 中国女性史研究のための参考書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「中国語科目では何をどのように教えているか」（関西学院大学総合教育研究室編『こんな授業をしています——関学における事例集——』）	2001年3月	共著 関学の中国語教育に関する報告（目標設定、教科書編纂、チームティーチング等）
4 その他教育活動上特記すべき事項 総合教育研究室「FDと高等教育プロジェクト」研究員	2004年4月～	FDに関する共同研究

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 西山 克	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>「日本史学概論」において、前近代の日本列島で展開した歴史について、主に史料の性格に留意しながら講義を行った。常識的には歴史学の一次史料は古文書、古記録＝文字史料とされているが、本講義では絵画資料の解説を課題として、ほぼ毎回「絵解き」を行った。絵画資料の解説が文字史料の読み解きとどのように位相を違えるか、実例を提示し、その解説の結果ではなく、過程を重視した。さらに毎年8月初旬に京都西福寺で実施される熊野観心十界図の絵解きを見学する企画を付け加え、私自身が絵解きを行った。</p>	<p>2005年4～7月</p>	<p>多人数履修の授業において、絵画資料を利用した講義は難しい。毎回レジメに写真コピーを添え、さらにそのトレース（描き起こし図）を添えて講義を行った。またOHCを活用して、カラー図版を提示する工夫をした。</p> <p>授業時間内のどのタイミングでも質問を認める由、開講当初に学生に伝えてあったが、その数は少なかった。しかし皆無ではなく、授業の活性化に役立った。教員－学生の緊張関係を維持するためにも、そのような試みは必要かと思う。</p> <p>授業日程外の見学会の参加者も少数にとどまった。しかし民俗行事と連動して絵画（絵画資料）がどのように機能し、現代に伝承されてきているのかが、参加者にはよく理解できたことと思う。教室とフィールドを組み合わせず授業実践を今後も試みてみたいと思う。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>西山克『聖地の想像力』（法蔵館）を参考に講義を行った。絵画図版・トレースのレジメもこれに準じた。</p>		<p>たとえば前近代の日本社会に拡大した天神信仰を論ずる際に、北野曼荼羅の利用が有効である。そのため、その写真図版のコピーと、絵画上に直接墨書された文字を書き写したトレース図版を作成し、レジメとした。さらにその景観年代・制作年代に関わる文字史料を提示し、絵画資料から析出できる歴史の断片を、通史的な叙述のなかに位置づける工夫をした。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>姫路市教育委員会主催の生涯学習講座（年10回）講師</p>		<p>姫路市教育委員会が生涯学習の一環として企画している歴史講座である。毎年テーマを設定して講義している。2005年度は「夢の日本史」。</p>

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 畑 道也	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2004年4月～ 2005年3月	教材提示装置(OHC)、カセット・テープ・音楽用CD・ビデオ再生装置、ピアノを使って音楽学関係と美学芸術学関係の授業と演習を実施した。春・秋の学期末には授業に対する学生のコメントを提出させて、次の学期の参考にした。
2 作成した教科書、教材、参考書	同上	「自己作成のレジメ」 項目を列記するのではなく、毎回、そのときの講義の全容を文章化して配布した。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等	同上	「音楽で読む聖書」(朝日カルチャーセンター東京、2004年11月12日、11月26日)
4 その他教育活動上特記すべき 事項		

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 浜野研三	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>①授業の途中で質問の時間を設けた。 また、毎回前回の講義の主要なポイントを説明する</p> <p>②ゼミで適宜 DVD やビデオなどを用いる。</p>	<p>2003 年の講義 課目より開始した。</p> <p>2002 年より。</p>	<p>質問の時間を設けたことについては質問がしやすくなったと、また、復習をすることについても理解が確実になると好評である。</p> <p>本を読んだだけの知識による発表が抽象的で現実感覚が乏しい場合に、マルチ・メディアの助けを借りる。映像や音声によって歴史的な出来事や事件がより具体性を持って理解できるようになり、学生の現在に限局された歴史意識や生活意識に変化のきっかけを与えるきっかけになるようである。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	福島好和	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</p> <p>担当授業の科目、1 演習「日本史学演習」・2 史料購読「日本史学史料研究」・3 講義「日本史学入門」について、それぞれの授業内容に則して、</p> <p>1 では学生の課外研究を促進させるための工夫、2 では史料の読解力を深めるための工夫、3 では自明な歴史事実の研究過程を示し、その研究の一端を学生自ら調べるよう工夫している。</p>	<p>1 2004年4月 ～2005年3月</p> <p>2 2003年4月 ～2004年3月</p> <p>3 2005年4月 ～2005年7月</p>	<p>科目1は3回生と4回生を継続して受け持つため、3回生においては各自のテーマを設定させ、その研究のための史料収集と先行論文の理解を深めるための要約をレジュメにさせて、各演習時間に輪番発表して構成員で討議をするようにした。担当者はその発表を進展させるため、発表についての問題点と次の課題を課するようにした。また、4回生は3回生において蓄積した史料と先行論文をもとに各自のテーマに則した小論文の作成を課し発表させている。担当者は論文の作成のために課外において指導をし、史料解釈の問題点や先行論文の所在などを指摘し各自の論文作成を援助した。</p> <p>科目2は史料研究の成果と史料の読解力を学習させるため、テキストとして『播磨国風土記』の写本（影印版）を使用し、その校注の歴史と諸本を提示し、各自が史料の一定範囲を分担し諸本の集成と史料の復元と解釈、関連資料の検索などを課し発表させた。担当者は学生の分担のトップを担い発表の規範を示している。また、史料の講読後のまとめとしてその歴史的問題点について討議した。</p> <p>科目3はテキストとして高等学校の『日本史B』を携行させ、担当者がその教科書から歴史的な流れに則したテーマを設定し、歴史事実の基になる史料・資料を提示し、史・資料の解釈をめぐる問題点と研究史をレジュメに沿って講義している。レジュメはシラバスに沿ったテーマとそれに関連する史・資料を事前に配布し、学生が自分の教科書と比較しながら歴史事実がどのような史・資料から成り立っているかを理解させるように勤めている。なお、各テーマが終了する時点でそのテーマに関するレポートを作成させ提出させている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>「論文作成上の諸注意」と各自作成のレジュメ</p> <p>『播磨国風土記』（影印版）コピー</p> <p>日本史学入門レジュメ</p>	<p>同上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「論文作成上の諸注意」は史料収集のための諸注意、参考論文の収集と各論文の要約の仕方、論文作成までのスケジュール、論文の書き方。 ・『播磨国風土記（コピー）』の飾磨郡（春学期）・揖保郡（秋学期）をテキストとして配布。同書の入手不可能な校訂諸本は閲覧できるように当該箇所のコピーを個人研究室に常置した。 ・日本史学入門のシラバスに対応したレジュメを配布。
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>上郡町史専門委員会委員</p> <p>揖保川町史専門委員会</p> <p>姫路市市史専門委員会</p> <p>尼崎市文化財保護審議会委員</p> <p>姫路市生涯学習大学講師</p> <p>西宮市大学交流協議会講師</p>	<p>～2004年3月</p> <p>～2003年3月</p> <p>～現在</p> <p>～現在</p> <p>～現在</p> <p>2005年2月</p>	<p>『上郡町史』編集・執筆</p> <p>『揖保川町史』編集・執筆</p> <p>姫路市市史専門委員会古代・中世部会長、『姫路市史』編集・執筆</p> <p>尼崎市内の文化財の市指定審議と教育委員会への答申</p> <p>姫路市生涯学習大学郷土史コース（隔週3回）</p> <p>インターカレッジ西宮講座を分担（1回）</p>

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 嶺 秀樹	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） パワー・ポイントの使用 小テストとレポートによる平常評価の重視 教師と学生の双方向の授業	2002年度から 2004年度まで	<p>哲学概論、倫理学概論の授業において、難解な思想についての理解を助けるために、パワー・ポイントを使用した。ビジュアルな要素を加えることによって学生の注意が増し、単なる講義形式によって一方的に話しをする場合はもちろん、板書を併用することによっては得られないような活気ある授業が実現できた。</p> <p>一回限りの定期テストによる成績評価をやめて、1学期につき2回の小テストおよび1回のレポートを課し、授業の進展に応じた参加者の理解の深まり確かめると共に、きめ細かい成績評価のあり方を工夫した。</p> <p>講義では30分ごとに話の区切りをつけ、学生からの質問を受け付けることによって、学生の理解を確かめると共に、授業が単調に流れない工夫をした。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書 自己作成したレジュメ パワー・ポイントのファイルの配布	2000年度から 2004年度まで	毎回、B4で2枚程度のレジュメを配布し、学生の理解を助けた。パワー・ポイントを使用するようになってからは、スライドのコピーをそれにかえるようにした。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項 文学部教務主任	2001年度から 2002年度まで	文学部が9学科から3学科へ改組されたとき、教務主任として新カリキュラムの作成に携わった。

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 八木康幸	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>2005年度授業科目「地域と文化(民俗文化論)」におけるビデオクリップ利用の試み</p>	2005年春学期	<p>民俗芸能を対象にした授業において、パフォーマンスそのものの理解や、理解を踏まえた比較考察が可能となるよう、できるだけ多くの民俗芸能について、動画資料を提供することとした。1、2分程度の長さのビデオクリップを多数作成して、プレゼンテーションソフトに組み入れ、毎時間複数の動画を学生に見せ、同時に配布プリントおよび写真その他の資料を提示して説明を加えた。プレゼンテーションソフトを用いず、教卓のビデオデッキを通じて数本のビデオを見せるにとどまった、過去における自分自身の授業に比較して、学生の理解は格段に向上した。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		特記事項なし
4 その他教育活動上特記すべき 事項 市民講座等の担当は右の通り。		<p>2000年度ひょうご講座(兵庫県) 「祭り・踊りと現代社会」(2000年7月27日)</p> <p>平成12年度川西市生涯学習短期大学レフネック 「村のかたち」(2000年8月26日) 「村の社会」(2000年9月2日) 「村とまつり」(2000年9月9日)</p> <p>バルテノン多摩連続講演「伝統の創造と文化変容」(多摩市) 「伝統の変容と地域文化のゆくえ」(2001年1月28日)</p> <p>平成13年度川西市生涯学習短期大学レフネック 「ふるさとの変貌」(2001年8月25日) 「地域活性化のいとなみ」(2001年9月1日) 「地域文化の創造へ」(2001年9月8日)</p> <p>2001年度丹波学(兵庫県) 「祭り・芸能と地域文化のゆくえ」(2001年8月26日)</p> <p>2004年度宮水学園歴史コース(西宮市) 「民俗芸能 創作太鼓」(2005年1月21日)</p>

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 助教授	氏名 山口 覚	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	-----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>地理学地域文化学という学問分野の性格上、現実には起こっている諸現象の具体的な映像やデータの提示が欠かせない。よって教材提示装置やパワーポイント、ビデオ等を利用して学生の関心を高め、理解を増すように努めている。</p>	<p>2004年9月～</p>	<p>これ以前では教材提示装置を主に利用していたが、2004年9月(2004年度秋学期)よりパワーポイントを積極的に利用するようになっている。よりスピーディに授業を進められること、多数の画像を提示できること、画像上に文字を入れられるため説明がしやすいことから、パワーポイントは有効な手段だと思われる。学生の評価も概ね好評である。ただし、一回の授業当たりの画像数がやや多いことがあり、どうしても途中から早口になってしまうなどの問題もある。今後の課題である。</p> <p>なお、どの授業でも一貫して、詳細なプリントを作成するようにしている。こちらも概ね学生からは好評だと考えている。</p> <p>前述の通り、私はしばしば早口になってしまうことがある。そのため学生が理解が得られないこともあるようであるため、そうした問題の解決策として、受講生に授業に対するコメントや質問を書いてもらう機会を可能な限り持ち、次回の冒頭で答えるようにしている。学生の理解度や考えを知ることできるため、このような機会を持つのは良いことだと思っている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>		<p>毎回、詳細なプリントを作成している。最近ではパワーポイントも毎回作成している。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		<p>特になし</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		<p>特になし。</p>

